



今月は検査科が  
担当いたします！



7月14日は  
「な(7)い(1)し(4)きょう」  
内視鏡の日！！更なる内視鏡医学  
の更なる発展と普及を願い制定  
(内視鏡医学研究振興財団制定)

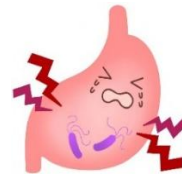
## エービーシーけんしん 新設『ABC検診』のご案内

ABC検診は別名「胃がんリスク検診」といい、胃粘膜の萎縮の程度(血清ペプシノゲン値)とピロリ菌感染の有無(血清ピロリIgG抗体)を数値にて表し、将来の胃がんリスクを予測する新しいタイプの胃がんの検診です。胃カメラ(胃内視鏡検査)や胃バリウム検査の必要もありません。検査は採血で行うことができ、特に食事や運動の制限はありません。ただし、血液による簡便な検査ではありますが、あくまで胃がんのなりやすさ、リスクを調べる検査であり、胃がんの有無を調べる検査ではないことは先にご理解頂ければと思います。

## 胃がんの原因と『ABC検診』

前回お話しした通り、胃がんはピロリ菌の感染が深くかかわっておりピロリ菌感染によって慢性胃炎から萎縮性胃炎になり、胃粘膜の萎縮が進むほど胃がんが発生しやすくなります。単独でピロリ菌の抗体を調べるのも有効ですが加えて胃粘膜の萎縮度(ペプシノゲン判定)を血液検査で調べ、一生の間に胃がんなどの胃疾患に罹るリスクを判定するのがABC検診です。検査結果はA～D群に分類され、区分に応じて今後の管理・対策の参考にします。「胃カメラもバリウム検査もやるのが怖い、やりたくない！」という方はまずABC検診を受け、胃カメラでの精密検査を受ける必要があるかどうかを判断していくのもひとつの方法と考えます。

基本的にはピロリ菌を除菌した方は検査の対象にはなりません、再燃する場合や再感染もごくわずかながらあります。また、除菌後も胃粘膜の萎縮が緩やかなら続く場合もあります。そういった方は胃カメラを優先すべきだと考えますが、ABC検診自体を行うのはご本人の判断によるものと考えます。ただし、除菌後の方はE群という診断になり、非除菌者と区別することになりますので予めご了承ください。(検査前に確認をさせていただきます。)



vol. 74 / 7月号  
発行/地域医療連携室  
後援/せたな町



病院公式SNSも  
ご登録ください😊



## 今月のひとさら

ナスと油揚げの煮浸し  
～夏野菜をたっぷり摂ろう！～



今月の担当：栄養士 杉村 瑚都

夏野菜が旬の時期のため、ナスを使ったレシピを

ご紹介します！ナスに含まれるナスニンは紫外線による肌のダメージの回復をサポートしてくれます★ ナスが苦手な方はピーマンやズッキーニ・かぼちゃでも美味しく召し上がれます！



### 【材料】

- ・ナス 2本
- ・油揚げ 1枚
- ・めんつゆ (3倍濃縮) 大さじ2
- ・水 150ml

### 【作り方】

- ①ナスは乱切りにし、油揚げは太めの短冊切りにする。
- ②鍋に水とめんつゆを入れて火にかける。
- ③ナスと油揚げを加えて、5～10分ほど煮る。
- ④ナスが柔らかくなったら完成。

※お好みで大根おろしやネギを添えても○

## 【公開医療講座のご案内】

日時：7月21日(火)15:00～16:00

場所：瀬棚老人と母と子の家

(瀬棚ボランティアセンター)

テーマ：「脂質とたんぱく質の  
摂り方について」

講師：管理栄養士 相原 雅樹

## 【看護フェアのご案内】

日時：2026年7月17日(金)  
15:00～17:00

きたひやま温泉まつり会場にて「看護フェア」を開催いたします。当院の医師や看護師、リハビリスタッフによる健康相談や体力測定などを行います。医療従事者のお仕事にご興味のある方もぜひお話を聞きにいらしてください。皆様のお越しをお待ちしております！



## ABCD分類と胃がんとの関係

「ピロリ菌抗体検査」と「ペプシノゲン検査」の結果を組み合わせ、A、B、C、Dと胃がんのリスクを分類します。A<B<C<Dの順に胃がんのリスクが高くなっていきます。

群分類	A 群	B 群	C 群	D 群
ピロリ菌抗体価	陰性	陽性	陽性	陰性
ペプシノゲン値	陰性	陰性	陽性	陽性
胃粘膜状態の予測	胃粘膜萎縮はない	胃粘膜萎縮は軽度	胃粘膜萎縮が進んでいる	胃粘膜萎縮が高度
胃がんの危険度	低			高

**A群:** ピロリ菌感染・胃粘膜萎縮はいずれも否定的です。胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、A群と判定された場合でも、胃がん発生のリスクを回避できるわけではありません。ピロリ菌感染以外の要因でも胃に病変が発生する場合があります。

**B群:** ピロリ菌感染の可能性があります。わずかながら胃がん発症リスクがあります。一度、胃カメラの受診をお勧めします。現在の感染が確定した場合ピロリ菌の除菌が必要となります。検査的には胃粘膜の萎縮と判断されますが、胃潰瘍・胃がんになる危険性を否定できません。自覚症状がなくても少なくとも2～3年に1度の間隔で定期的な胃カメラを受ける事をお勧めします。

**C群:** ピロリ菌感染および慢性萎縮性胃炎の状態と思われます。胃がんになる危険性がありますので、ピロリ菌を除菌し、毎年胃カメラを受ける事をお勧めします。

**D群:** 高度の胃粘膜萎縮の状態、ピロリ菌も生存できないほど胃が弱っている可能性があります。C群と同様、胃がんを発症するリスクが高めと判断させます。胃がん発生リスクが高い群ですので、年1回は胃カメラを行い、注意深く経過観察する必要があります。

※ピロリ菌除菌後の方は、E群(除菌群)となります。




文責 検査科 金田 晃

**まずはご自身の 当院でも採血にて検査が可能です!!**

**胃がんリスクを知ることから。**

胃がんのリスクもA群からD群に分類し、適切な治療を受ける等の健康維持につなげます。



ピロリ菌抗体検査  
ペプシノゲン検査

**¥3,300(税込)**

### 【薬剤部からの豆知識💡】<お薬手帳の3つの活用ポイント>

**① 薬の重複や飲み合わせを確認できる**  
複数の医療機関を受診している場合でも、同じような薬の重複や飲み合わせによる副作用を防ぐことができます。

**② 市販薬やサプリメントとの相互作用を確認できる**  
処方薬だけでなく、市販薬や健康食品との飲み合わせ確認にも役立ちます。

**③ 緊急時や災害時に役立つ**  
急な受診や災害時でも、服用中の薬を医療者へ正確に伝えることができます。



※お薬手帳は複数冊に分けず、1冊にまとめて管理しましょう。